



中部電力パワーグリッド

2023年9月8日
取締役会
中電報知事項資料 1



高圧引込線分岐用開閉器の 廃止検討について

2023年8月22日
中部電力パワーグリッド(株) 配電部

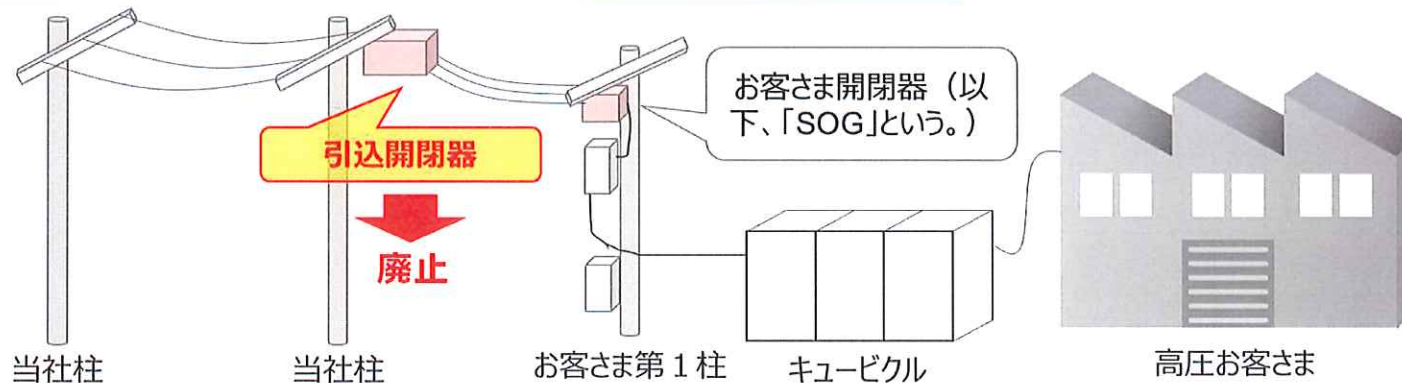
1 概要

- ▶ レベニューキャップ制度による託送料金査定（コスト・設備形成基準等に係る10電力比較）が行われる中、高圧引込線分岐用開閉器（以下、「引込開閉器」という。）の必要性を合理的に説明することが困難な状況となっており、やむを得ず、**引込開閉器の廃止（2024年度目途～）**※に至ることとなりました。
- ▶ また、これまで以上に厳しい査定を受けており、**停送電操作（開閉器操作または切り離し工事）**を含む人件費や工事費等の電力会社のコスト（社会的コスト）について、限界まで**削減・最小化**するよう強く求められています。

10電力の状況

残る3電力も、順次、引込開閉器を廃止

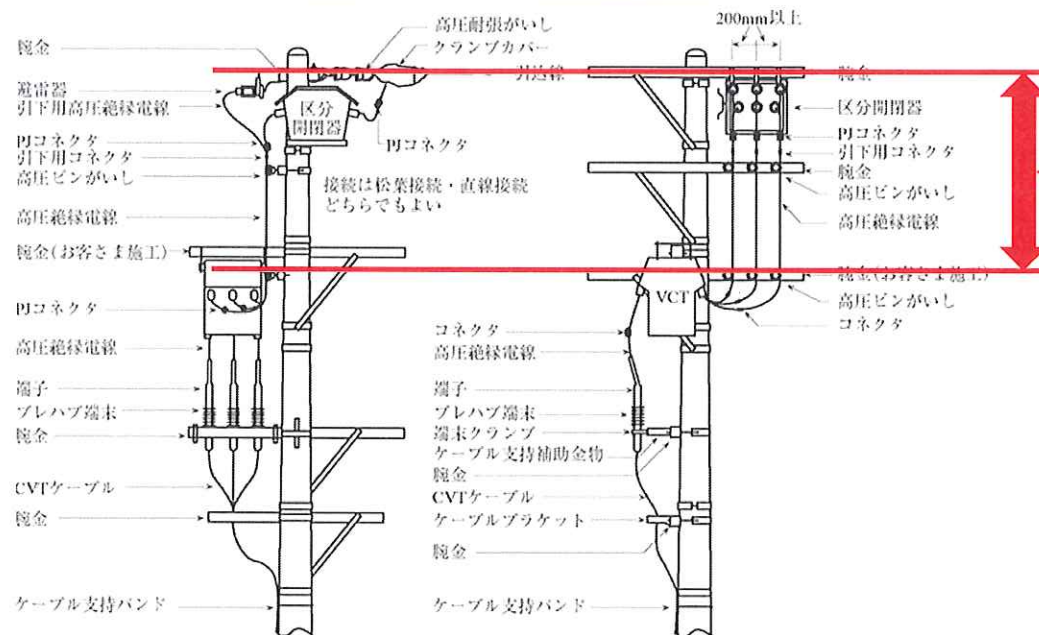
	北海道	東北	東京	北陸	中部	関西	中国	四国	九州	沖縄
引込開閉器	有 (全数)	無	無 (2014～)	無	有 (全数)	有 (全数)	無 (2014～)	無	無	無



※ 既設の引込開閉器は計画的に撤去しませんが、他工事が生じる場合は、同時撤去することを検討しております。
 なお、一部の箇所（ケーブル引込箇所等）は、継続して引込開閉器を取付する場合があります。

2 引込開閉器の廃止による変更点 (VCT工事)

- 引込開閉器による停電操作が不能となるため、**SOG開放**により、**VCT工事** (新增設・検満) を行う必要が生じます。
- なお、VCT工事にあたり、**充電部との安全距離** (頭上50cm、体側80cm) を確保するべく、お客さま第1柱における**装柱条件 (離隔距離等)** を規定し、**高压受電設備規程**へ反映する予定です。



SOG開放によりVCT工事を実施

お客さま第1柱の装柱条件※を明確化

- 十分な**離隔**を確保する

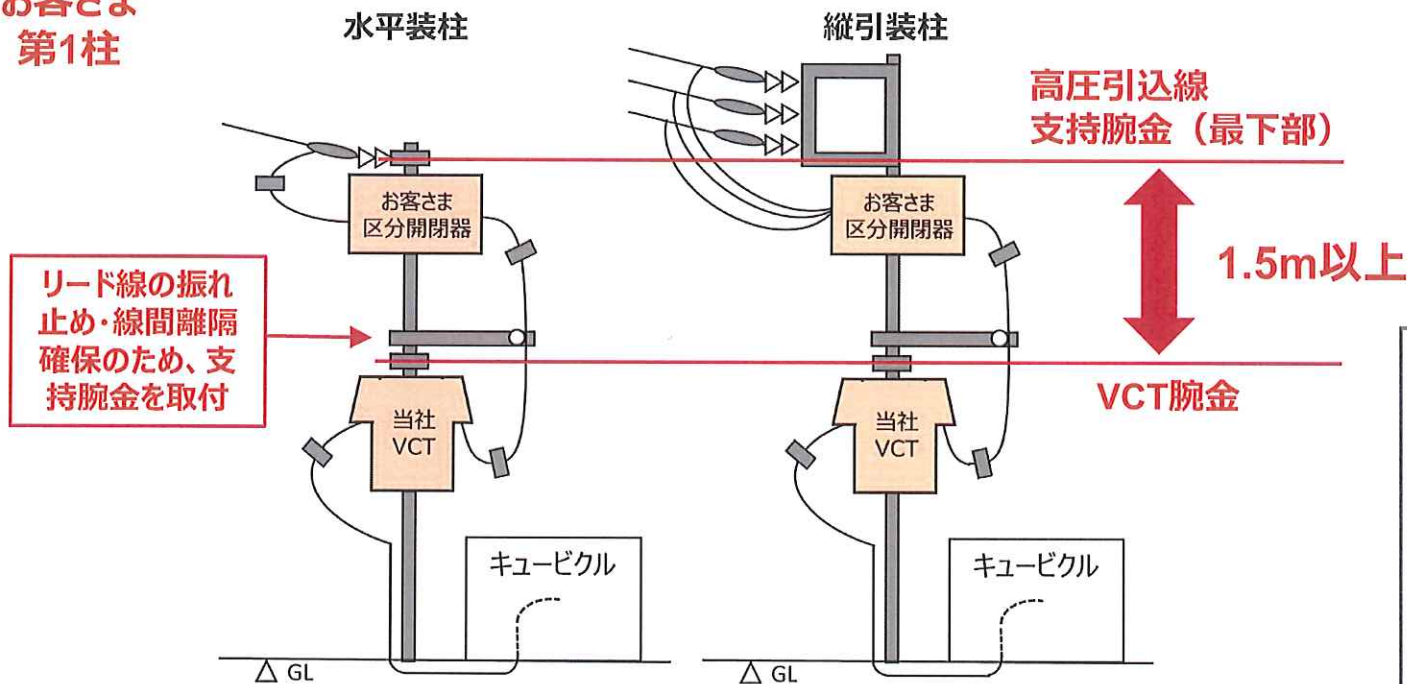
※ 具体的な条件は、今後、作業検証等を実施のうえ定める

- **高压受電設備規程**に反映・明記予定

3 お客様第1柱の装柱条件【検証結果】

- ◆ 当社計器工事の作業安全を確保するため、お客様第1柱における高圧引込線支持腕金（最下部）とVCT腕金の離隔距離を、1.5m以上確保することとします。
- ※ 1.5m以上の離隔距離が保たれていない場合、計器工事の後でなければ高圧引込線工事を行うことができず、高圧引込線工事の実施可能期間がさらに短くなるため、受電希望日までに施工を完了させることが困難化します。

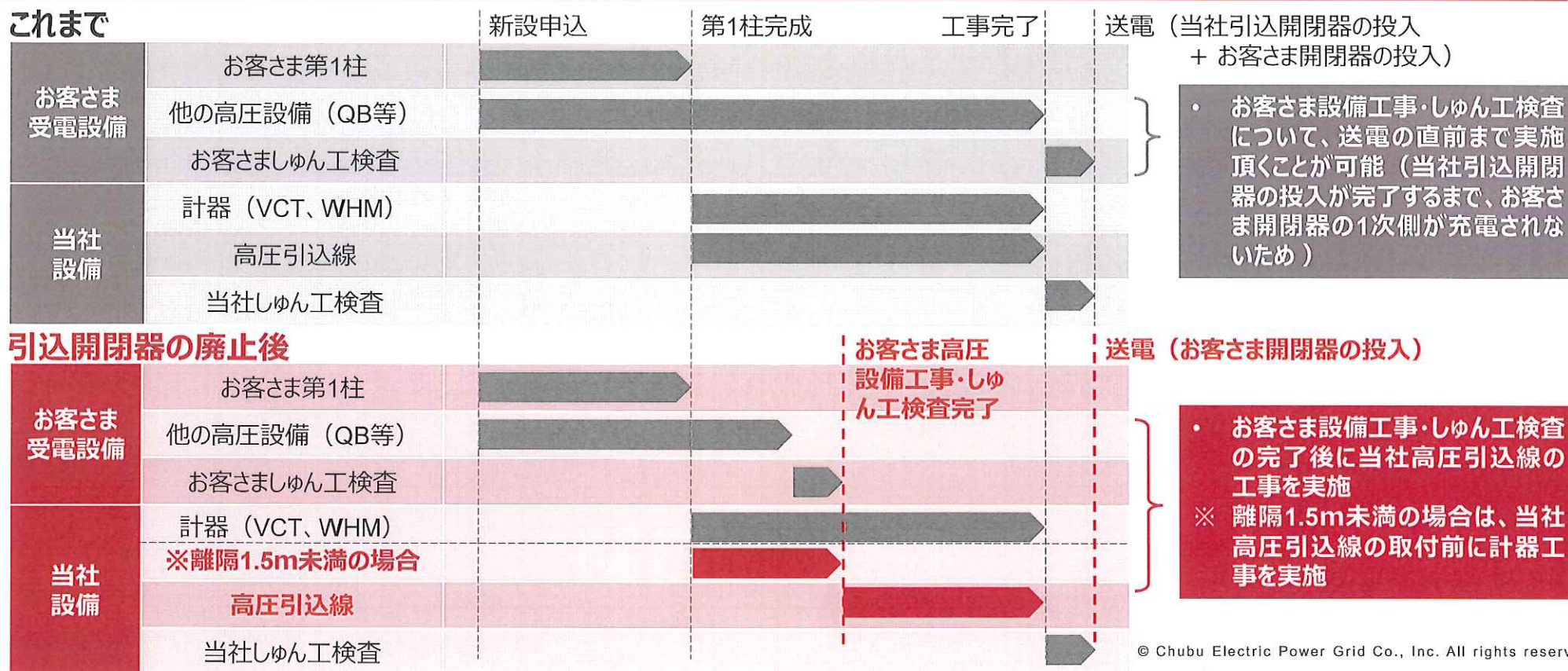
お客様
第1柱



- 取扱いの詳細は、「高圧受電設備規程（付録）中部電力パワーグリッド株式会社供給区域内」へ反映予定。
- 1.5m以上が確保されていない場合、当社引込線および計器の施工期間が長期化する原因となる。
- スムーズな施工のためにも、設計時・施工時における離隔距離の確保について、ご協力いただきたい。

参考 新設時の作業工程イメージ【第1柱にVCT設置の場合】

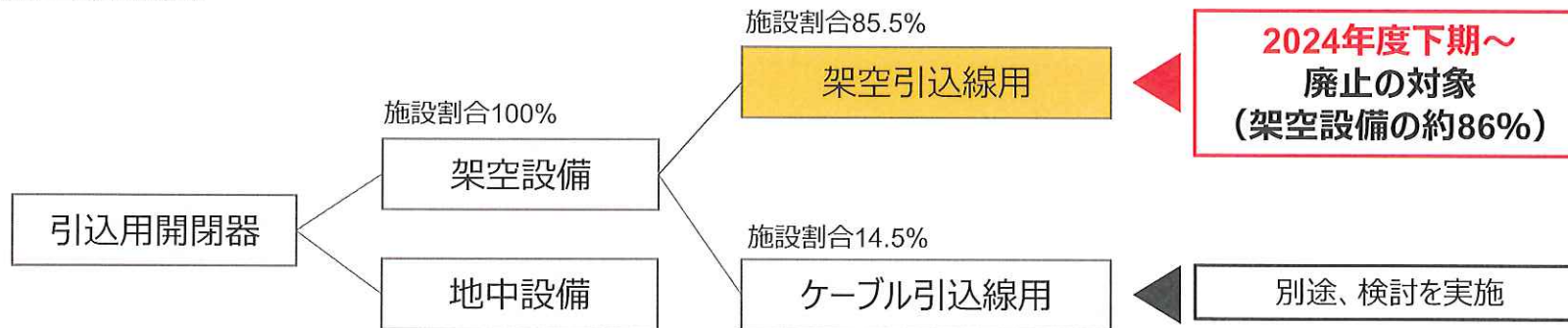
- 引込開閉器の廃止により、当社高圧引込線の施設と同時にお客さま開閉器1次側が充電されますので、お客さま高圧受電設備に係る全ての工事・作業の完了後でなければ、当社高圧引込線を施設することができなくなります。
- このため、お客さましゅん工検査後において、当社高圧引込線の工事期間を確保することが必要となります。



参考 廃止の対象・条件

- 廃止の対象は、**架空設備**のうち、**約86%**を占める架空引込線用の引込開閉器となります。
- このうち、廃止の条件に合致する箇所について、引込開閉器の取付が廃止となる予定です。

<廃止の対象>



<廃止の条件>

	内容
条件	<ul style="list-style-type: none"> • 絶縁電線（OCW,OE等）で架空引込すること • 先方柱で受電し、SOGが取付してあること • 間接活線工法により、高圧引込線の切離し・再接続が可能であること